

## 浅间山の地殻変動

浅间山においては、山頂を南北に挟む基線においてやや収縮傾向がみられるが、その他には大きな変動は見られない。

東京大学地震研究所では、2007 年 11 月に浅间山頂に GPS 観測点 (KAHG) を新設した。また、既存の観測点の受信機を入れ替え、1 秒サンプリング観測 (従来は 30 秒サンプリング) を開始した。現在、ONIO および TAKA においては観測を行っていないが、ONIO については、代替地の土地申請が完了次第、TAKA についてはデータ伝送経路が確保でき次第、観測を再開する予定である。

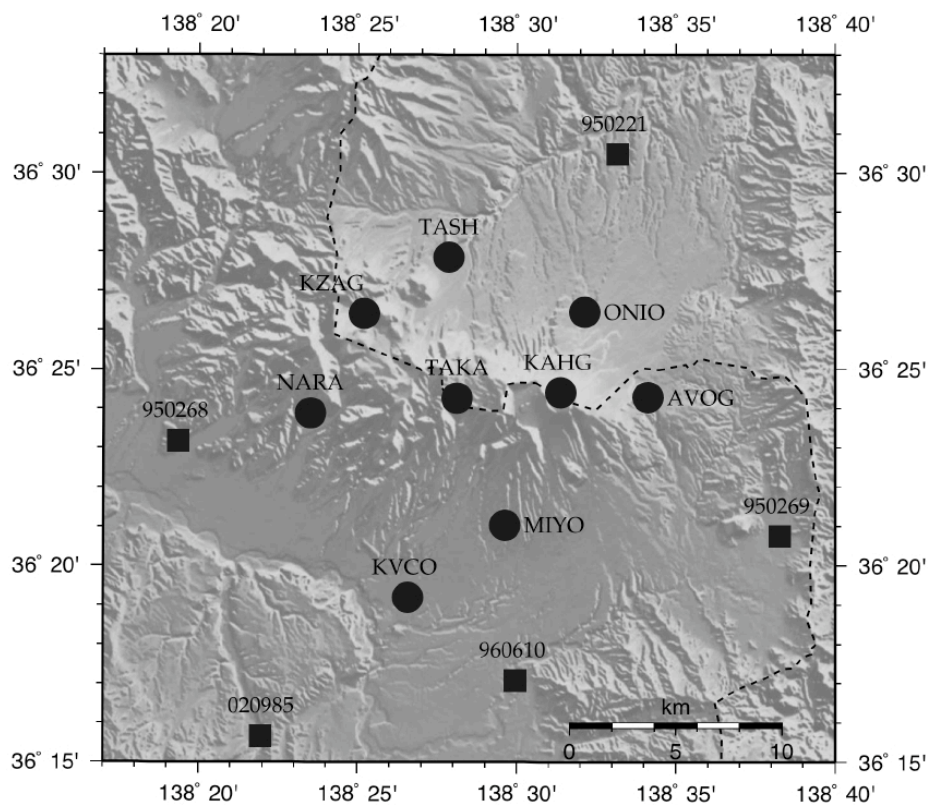
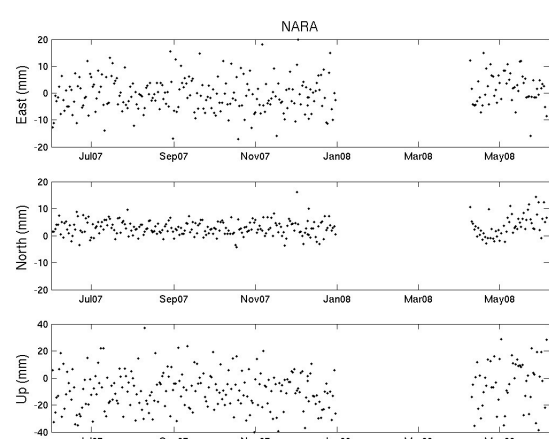
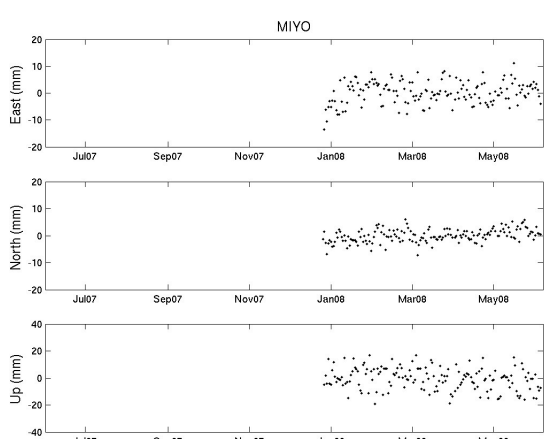
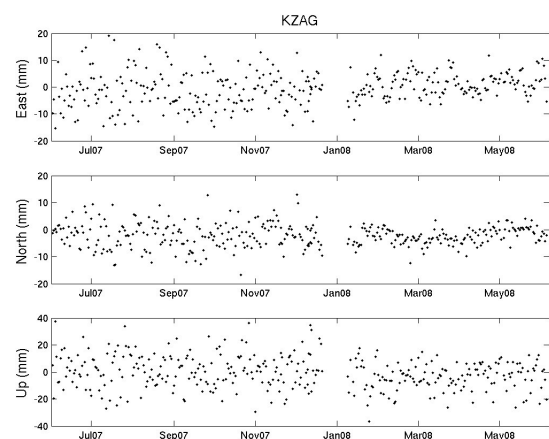
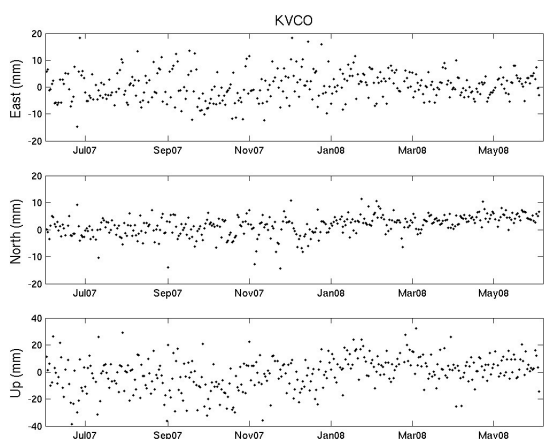
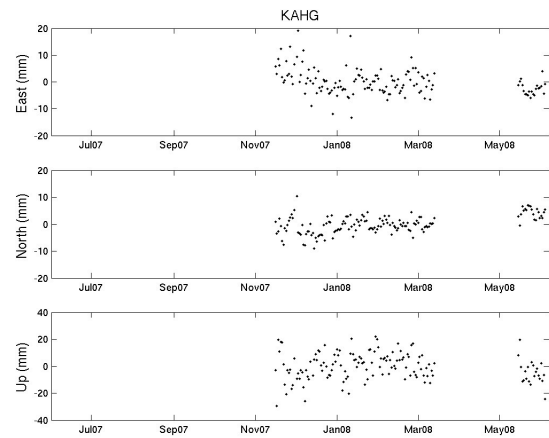
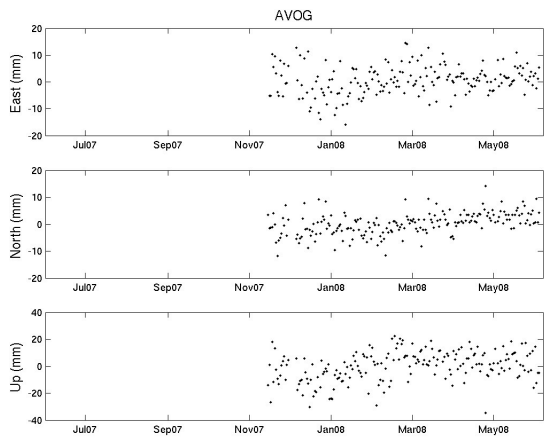


図 1 : GPS 連続観測点の配置。●は地震研究所の観測点、■は国土地理院の連続観測点を示す。



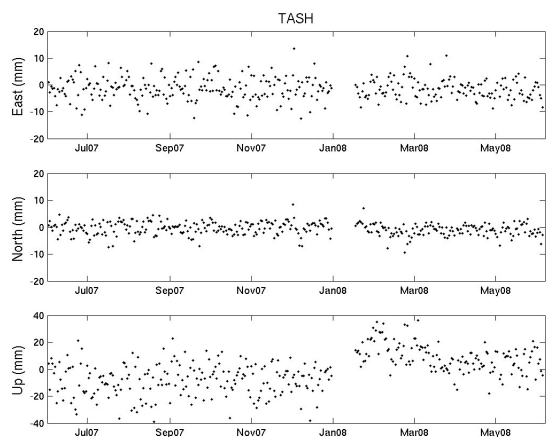


図 2：主な観測点の国土地理院 950272 観測点（浅間山より約 30km 南方にあり，十分良い基準点と考えられる。）に対する変位. NARA は 2008 年 4 月に観測点の移設を行ったが，その影響は補正済みである. 2008 年初頭に TASH の上下成分にて見られるジャンプは受信機交換によるものである可能性もあるが，詳細は不明である.

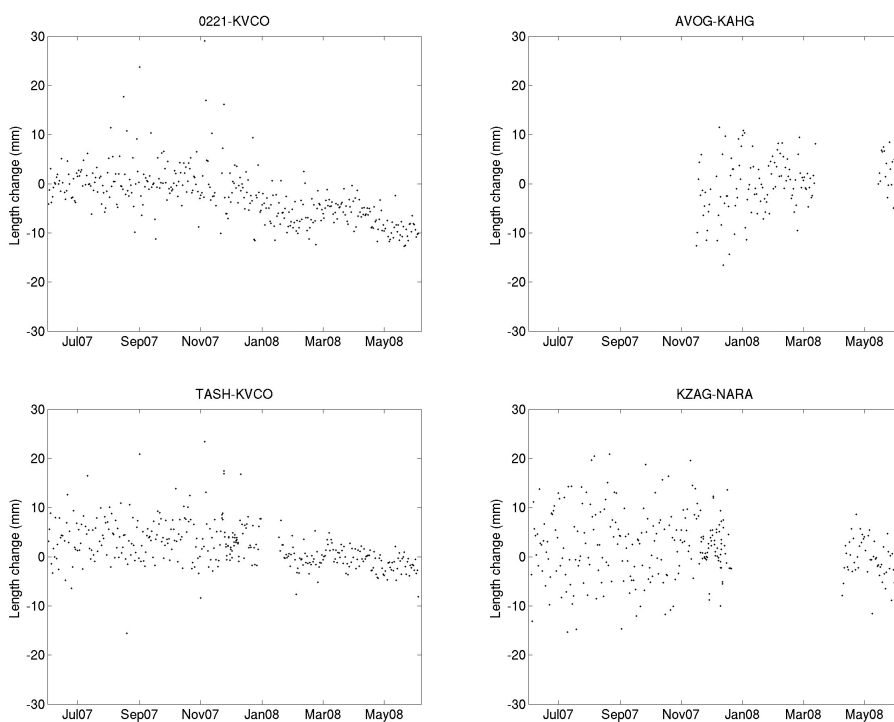


図 3：主な観測点間の基線長変化. 山体を南北にはさむ測線（たとえば 0221-KVCO, TASH-KVCO）でやや収縮しているようである.